

# 台風第18号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成28年10月3日  
新潟県農林水産部

平成28年10月3日14時45分に気象庁から発表された「台風第18号に関する情報 第37号」によると、台風第18号は、5日夕方から6日未明にかけて本県に最も接近する見込みです。

今後発表される気象情報に注意し、農作物等の適切な管理に努めてください。

また、台風により荒天となった場合は、安全確保のためほ場や水路等の見回りは行わないようにしてください。

## I 普通作物

### 1 水 稲

#### 【事前対策】

- ・収穫期を迎えているほ場は可能な限り収穫する。収穫前のほ場は、大雨時のほ場の停滞水を迅速に排除するため、排水路の点検・整備を実施する。

#### 【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水する。穂先まで冠水したほ場は、特に排水を急ぐ。
- (2) 倒伏している場合は、穂発芽し易いので速やかに排水するとともに、収穫期を迎えたほ場は、晴れ間を逃さず収穫を行う。
- (3) 収穫時の籾水分が高い場合は、収穫後速やかに乾燥機に張り込む。ただし、急激な乾燥は避ける。

### 2 大 豆・そ ば

#### 【事前対策】

- ・今後の収穫作業に支障がないように、排水路及びほ場内の排水溝の点検・整備を実施する。

#### 【事後対策】

- (1) ほ場内に停滞水が生じたら、迅速な排水に努める。
- (2) 大豆の莢が損傷を受けた場合は、腐敗粒が発生しやすいので、刈り遅れないよう注意する。

### 3 大 麦

#### 【事前対策】

- ・播種作業及び播種後の生育に影響がないように、排水路及びほ場内の排水溝の点検・整備を実施する。

#### 【事後対策】

- (1) ほ場内に停滞水が生じたら、迅速な排水に努める。
- (2) 土壌水分が高く、は種時に土壌を練ることが予想される場合は、無理にドリル播き

を行わず全面表面播きに切り替える。

## II 園芸関係

### 1 全般

#### 【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、収穫期を迎えた園芸作物（ねぎ、なす、えだまめ等野菜、ユリ切り花、果樹）は、可能な限り収穫する。
- (2) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を点検・補強する。
- (3) 施設（ハウス、雨よけなど）のビニール類を強風から保護するため、マイカー線の点検・補強、らせん杭等の固定状況の確認を行うとともに、換気扇や天窓が強風で飛ばされないよう補強する。
- (4) 台風通過中は、ハウス被覆資材のばたつきを防ぐため、施設を密封し換気扇を稼働させる。
- (5) 大雨が予想される場合は、長時間の滞水を避けるため、ほ場内及び周辺の溝切り等排水対策を徹底する。

#### 【事後対策】

- (1) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに引き起こし、土寄せ、かん水する。
- (2) 施設、支柱・支線、誘引結束等を点検し、破損か所は速やかに補修する。
- (3) ほ場内の停滞水は根腐れ等の原因となるため、速やかに排水する。
- (4) 強風で傷んだ茎葉は病気の感染源となるため、除去し薬剤散布する。
- (5) 葉ズレ、枝ズレ等で障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に留意する。

### 2 野菜

#### 【事前対策】

- (1) 強風等が予想される場合は、ねぎ、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ等は、倒伏及び茎折れを防ぐため、土寄せを行う。  
なお、土寄せは、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツで出蕾期または結球期に入っているほ場を除いて実施する。
- (2) 露地で育苗中のものは、葉の損傷を防ぐため、べたがけ資材を被覆する。

#### 【事後対策】

- (1) ねぎが倒伏した場合は、曲がり防止するため、早急に起こして土寄せする。えだまめ、なす、アスパラガス等が倒伏した場合は、速やかに支柱に誘引する。
- (2) 強風雨により障害を受けた果実は、草勢低下を防ぐため、早めに収穫・摘果する。
- (3) 露地において、風雨により土壌表面が固結した場合は、土壌を膨軟にするため、固結層を崩すように軽く中耕する。
- (4) 施設野菜等で施設内に浸水した場合は、換気を十分行い、土壌の乾燥を図る。また、マルチ内が過湿状態の場合は、一次的にマルチの裾をめくり、乾燥を促す。特に果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、遮光資材を利用して急激な温度上昇を防止するとともに、摘果により着果負担を軽減する。
- (5) 茎葉が損傷した場合は、病害防止と草勢回復のため、薬剤散布や液肥の葉面散布を行う。

### 3 果 樹

#### 【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、防風網及びハウスビニールを点検・補強する。
  - ア 立木果樹では、落果及び枝・葉ずれによる果実の品質低下や倒木を防ぐため、補強用の支柱を入れたり、マイカ線やロープ等で枝をしっかりと結束・固定する。
  - イ 棚果樹では、棚揺れによる落果を防ぐため、鋼管による棚面補強やアンカー等を設置する。
- (2) 潮風を伴った強風の場合、散水による塩分の洗い流しが有効なので、事前に散水粒子の大きい鉄砲ノズルやスプリンクラー散水の準備をしておく。

#### 【事後対策】

- (1) ハウス、棚、防鳥網等の破損箇所は、速やかに補修及び掛け直しする。
- (2) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (3) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。
- (4) 倒伏した樹を引き起こす場合は、残った根を痛めないよう慎重に作業を行う。また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。
- (5) 強風や潮風により落葉が著しい場合、収穫まで1か月以上ある樹種（品種）では、品質低下を防ぐため、落葉程度に応じて障害果を優先して摘果し、適正な葉果比を維持する。
- (6) 枝葉の損傷による病害の発生が懸念されるので、適切な防除対策を実施する。
- (7) 潮風を伴った場合は、直ちに鉄砲ノズルやスプリンクラー散水を実施する。

### 4 花 き

#### 【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、露地切り花では茎葉のスレを防止するため、必要に応じてネットを下げる。また、雨よけ施設ではビニールや遮光資材を外しておく。

#### 【事後対策】

- (1) 倒伏した株は、茎や花穂の曲がりや折れを防止するため、風が止んだら早急に立て直す。
- (2) 切り花、鉢ものでは、早急に折損した茎葉の整理を行い、薬剤散布等により病害の発生防止に努める。
- (3) 冠水・浸水等により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかに散水等で汚れを落とす。
- (4) 施設が被災した場合は、速やかに作動点検を行う。特に、キク等の電照・補光関連装備（電球、タイマー等）は、作動点検及び修理を急ぐ。

## III 畜産関係

#### 【事前対策】

- (1) 停電など緊急時に備え、自家発電装置の準備、点検を行っておく。
- (2) 畜舎の破損を防ぐため、窓や扉等を補強する。  
特にハウス畜舎等簡易な施設は、補強を確実に行う。
- (3) 畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料・乾草等は濡れて変質・腐敗しないよう、

安全な場所に移動する。

- (4) ほ場から搬出していない牧草のラップサイレージ等、調製済みのロールペールは、水はけの良い場所に搬出し、縦置きにする。
- (5) 放牧中の牛は、安全な施設、場所に避難させる。

**【事後対策】**

- ・ 畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、すみやかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。  
特に搾乳機器は入念に点検を行い、洗浄、消毒等の衛生対策を徹底する。

## IV きのこと

**【事前対策】**

(1) 一般対策

あらかじめ、施設や栽培状況を把握し、想定される被害に対して、早急に対応できるように準備、点検を行う。

(2) 大雨が予想される場合

施設等への雨水の浸水を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。

(3) 防風対策

ア 施設（ハウス、雨よけ等）の戸締まり・点検を十分に行い、損壊等が生じないように保護・補強に努める。

イ 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆等の適切な管理を行い、移動が可能な資材については屋内に移動させる。

**【事後対策】**

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (2) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。
- (3) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
- (4) 浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- (5) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。